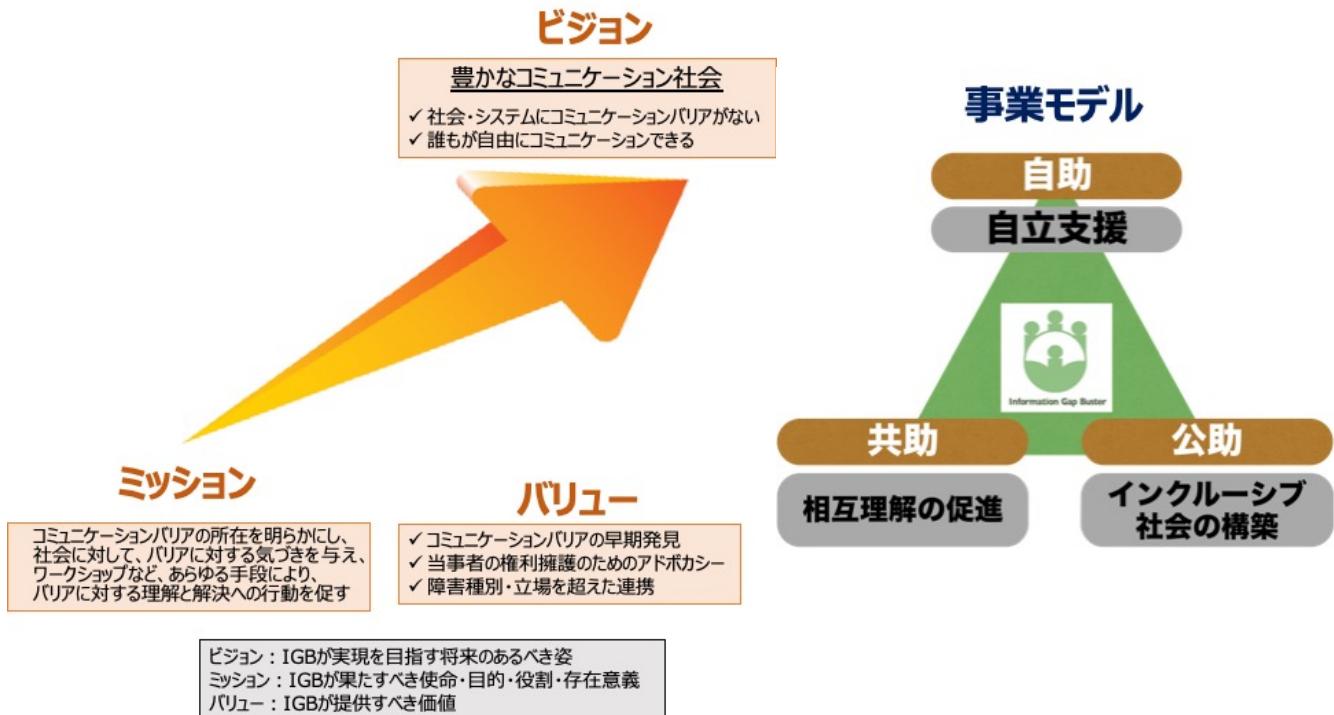


2019年度 IGB事業計画(案)

【2019年度事業方針】

1. IGBにおけるミッション・バリュー・ビジョン / 事業モデル



2. 2019年度の活動方針

基本的に2018年度の継続とするが、より持続可能な体制へと変革するための施策を実行する。

●多者協働プラットフォームモデルの構築

既存の同一目的の組織の場合、人材、コストの面で限界があり、継続することが困難。
そのため、多様な目的を持つ関係団体が参加することでそれぞれのメリットを得ることができる場
(多者協働プラットフォーム)の構築を長期的に検討する。(2019年～2021年を予定)
多者協働プラットフォームの構築にあたっては、ミッション、バリュー、ビジョン、事業モデルなど、
プロボノを活用して、持続可能な体制にするための見直しを進める予定。

●人材教育

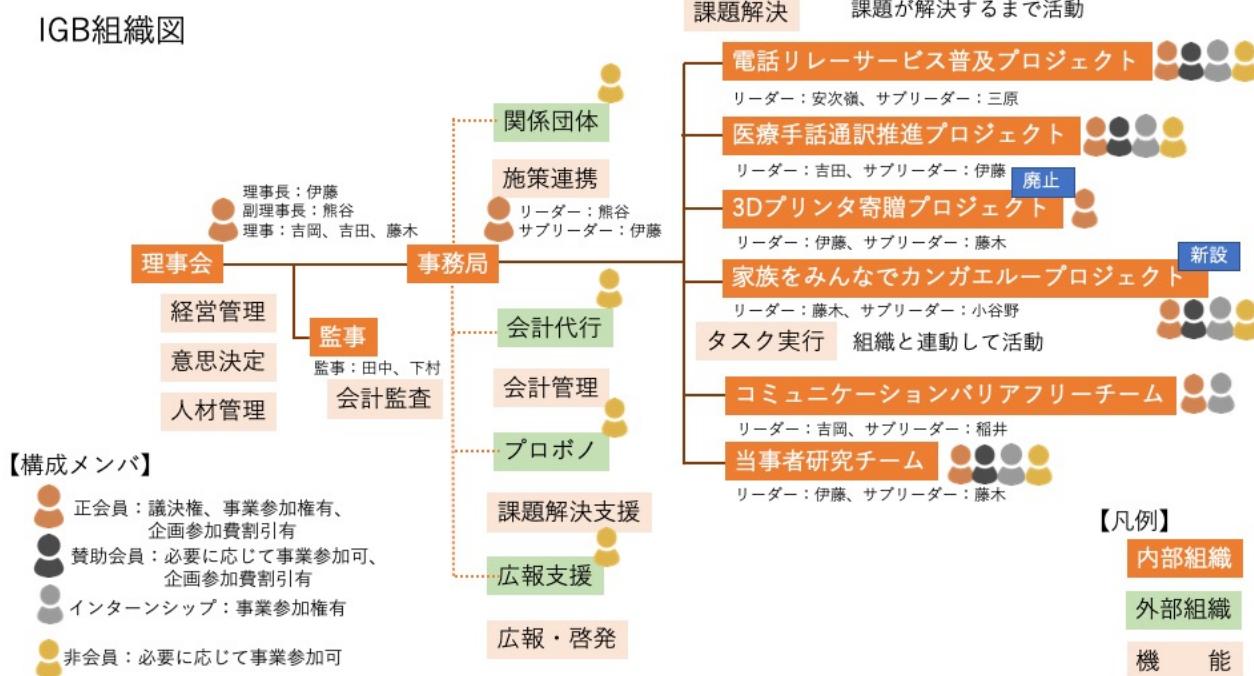
「依存型」人材から「自律型」人材への育成を行う教育プログラムをプロボノ活用により検討する予定。
(9月～3月を予定)

●内規の整備

- ・「通訳謝礼内規」の改定。(神奈川県の水準に追随)
- ・「スタッフ手当内規」の新設。

3. 運営体制について

下記の通り、チーム・プロジェクト体制を構築し、実行する。



4. 各チーム・プロジェクトの活動方針

◎ 事務局

- ・政府や関連団体へ要望を出して、社会問題の解決を図る。
- ・総会運営、横浜市、法務局などのNPO関係の手続、会計事務、会費徴収、団体活動に必要な情報の共有、情報共有ツール運営、助成金獲得などを行う。
- ・市民へコミュニケーションバリア問題をWebサイト、facebookなどを活用して情報発信する。
- ・会計処理のための会計代行サービスとの連携、立替金の決済処理などを行う。
- ・県指定NPO法人化のための準備を行う。（将来的には認証NPO法人化を視野に入る）
- ・バリューのブラッシュアップなどプロボノとの連携を行う。（デロイトトーマツコンサルティングを予定）

◎ コミュニケーションバリアフリーチーム

- ・コミュニケーションスキルアップの企画を行う。（プレゼンテーション、ファシリテーションなど）
- ・市民へコミュニケーションバリアの問題を啓発する。
- ・コミュニケーションバリアフリーについて、関連団体とコラボし、社会に対して啓発する。
- ・外部団体と連携し、コミュニケーションバリアフリーを実現する製品・サービスの創生を行う。（PLAYERSを予定）

◎ 当事者研究チーム

- ・当事者自身のことをよりよく知り、言語化することで、支援を求めやすくするために、当事者研究の企画を検討する。
- ・当事者研究ツールの開発を行う。

◎ 家族をみんなでカンガエループロジェクト(新設)

- ・家族内のコミュニケーション問題を取り上げ、解決策を模索する。

◎ 電話リレーサービス普及プロジェクト

- ・電話リレーサービスの公共インフラ化のための啓発を議員・インフルエンサーをメインターゲットに行う。（シンポジウム、啓発パンフレット配布など）

◎ 3Dプリンタ寄贈プロジェクト(廃止)

- ・視覚障害学生の触覚学習の支援のために3Dプリンタを学校に寄贈、運用支援を行う。

◎ 医療手話通訳推進プロジェクト

- ・医療手話通訳の普及および病院内手話通訳者設置のためのシンポジウム開催や陳情を行う。
- ・医療用語手話動画DVDを作成する。

5. 2019年度の予定（企画）

【1年間の予定】

6/29(土) : 総会、定例会(ライフヒストリー) [決定]

7/26(日) : 家族をみんなでカンガエループロジェクトキックオフミーティング[決定]

8月 : CBFチームイベント [予定]

9月 : 定例会(情報保障) [予定]

10月 : なし

11/17(日) : 医療通訳シンポジウム [決定]

12月 : 定例会(リテラシー) [予定]

1月 : 当事者研究チーム勉強会 [予定]

2月 : 電話リレーサービス普及プロジェクトイベント[予定]

3月 : 茶話会 [予定]